令和６年度　県南地域づくりキャンパス事業

大正大学：在住外国人の取材と「阿南人」の制作・動画配信

【事業の内容】

大正大学地域創生学部の地域実習とは

2024 年の地域実習 II は 9 月 30 日～11 月 1 日の期間で「南三陸町、東京都、南魚沼市、藤枝市、御坊市、淡路市、阿南市、今治市、益田市、延岡市」の 10 地域で実施。実習は「交流や対話を通じて地域に対する理解を深め、個人の関心テーマを明確にして就職やキャリアについて考えるきっかけになること」を目的としており、学生たちは基本的に２つの異なった地域で活動した。

阿南市では、２年生の前半６名、後半６名がそれぞれ２週間にわたって市内視察・農業や SUP 体験・竹林コンサート出演など様々な体験交流に取り組み、地域実習Ⅲでも４名の３年生が阿南でそれぞれ個人テーマの調査活動を行った。県南地域づくりキャンパス事業としては、２年生が阿南市内在住の外国人にインタビュー取材して、冊子「阿南人 Ver.internaitional」を制作した。

外国人の取材＆記事作成

阿南市国際交流協会の野村副会長に支局に来ていただき、阿南市在住外国人（約 400 人）の現状や課題、外国人が仕事や生活に順応するための日本語教室や遠足などの協会の活動について学んだ。次にタウン誌の編集経験のある飛田さんに、インタビューの準備や話を聞くコツ、魅力的な記事の書き方について講義を受け、野村副会長から推薦のあった外国人の取材計画を立てた。

そして、取材をお願いするチラシを作成して事業所等を訪ねてアポ取りを行い、最終的に 14 人の外国人に取材することができた。学生たちは３人ずつの２班体制で外国人の職場等を訪問してインタビューを実施。不慣れな英語と日本語を織り交ぜながら、阿南市に来たきっかけや、生活や仕事の様子、好きな場所や食べ物、将来の夢などを聴き取った。外国人の方々はとても友好的で会話も弾み、阿南の魅力や生活で困ったこと、地域の人たちとの交流の機会を望んでいることなども話してくれた。また、職場の人からも一生懸命に技術を習得しようとする姿に感謝の言葉もあった。

インタビューの様子

取材を通して感じた外国人の労働環境や地域の人や高校生との交流、国際交流協会の日本語教室のＰＲ方法などについて、個人テーマとして調査研究を進めた学生もいた。

冊子「阿南人」の作成

インタビューの内容や写真を整理して、外国人を紹介する冊子「阿南人 Ver.interenational」を制作。それぞれの外国人コーナーのほか、実習中の活動写真、個人研究テーマ、国際交流協会へのインタビューなども掲載。取材風景をまとめた動画はＱＲコードから見てもらえるように工夫した。

外国人紹介ページ

阿南市主催の桑野川のリバークリーン活動にも参加。

取材時に通訳をしてくれた辻岡健人さん。辻岡さんはベトナムで長期現住経験のある日本人学生でＳＮＳからアニルさんと交流がある。

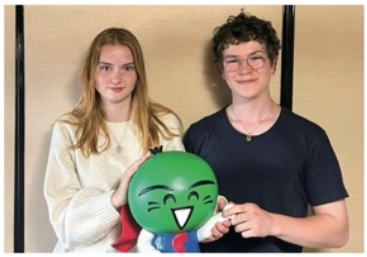
プロフィール

Anil Raj（アニル ラージ）さん

父親はシンガポール、母親はインド出身。39歳。2024年9月に短期留学生として来日し、国立阿南工業高等専門学校に通っている。趣味はサイクリング。自然豊かな阿南が大好きで、わざと迷子になって新しい景色を開拓している。

「一念発起し、学び直しを決意。留学生として阿南市へ」

シンガポールでは保険会社や旅行代理店など様々な職業を経験。その中でも一番楽しかった仕事は料理人だったそう。しかしシンガポールは学歴社会。これまであまり勉強してこなかったアニルさんは、絶々アップと自身が目指すキャリアパスに繋げようと一年発起してRepublic Polytechnic Singaporeへ入学。工学系の実務に直結した学位を取得するため、留学を決意（阿南高専は３ヵ月～５ヵ月、提携大学からの短期留学を受け入れている）。「阿南は自然豊かで、ごみや環境に対する意識も素晴らしい。生活リズムがゆったりしていて、新たなものを吸収する環境が整っている」という。プログラミングや設計を学びながら、充実した留学生活を送っているが、唯一困っているのが日本語の習得。週末は阿南市国際交流協会が主催する日本語教室に通っている。「私と同じような短期留学生も多いはず。SNSなどを活用し、阿南市国際交流協会のことをもっと多くの人に知ってもらえるといいと思う」と話した。



加茂谷ではすだちの収穫などを体験した。

プロフィール

Anja Meiriel Lehfeld（メイリ）さん

Simon Ehrhardt（サイモン）さん

ドイツのハンブルグ地方の高校の同級生。加茂谷すだちパークでも６月間の日本滞在プロジェクトに参加し、すだち収穫や古民家リノベーション、地域住民との交流などを体験している。滞在中は古民家シェアハウスで過ごし、この時はメキシコやイタリアなどから５人の若者が参加していた。

「加茂谷地区を一言で表すと“PEACE FULL”」

元々日本のアニメが好きだったサイモンさんと妖怪文化に興味があったメイさん。自然の中で様々な体験ができるプロジェクト内容に惹かれ、阿南市を選択したそう。加茂谷地区の最大の魅力は「平和で静かな環境」という２人。２人が暮らすドイツのハンブルクは、１日の平均利用者数は約 55 万人ともいわれるドイツ最大の利用者数を誇るハンブルクの中央駅があり、「街の騒音はストレス」という。加茂谷は阿南の中でも自然豊かで過ごしやすい地域だが、意外にも困っているのが「水」なのだとか。ドイツの水に比べ、塩素濃度の高い日本の水はしょっぱく感じるため、大きな炭酸水を購入し、飲料水として利用している。また加茂谷といえばかつて洪水による浸水被害にも遭ったところだが、近年、ドイツでも集中豪雨による大規模な水害が起きていることもあり、あまり問題視していないという。ドイツに帰国するまでの間、ここでしかできない体験を通じて「視野を広げたい」と話した。

AIAのバス遠足でたむらと奥校水族館へ。

熱々と卵を割る作業をするメリサさん。

プロフィール

たむらのタマゴ

Melisa Lestari（メリサ レスタリ）さん

インドネシアのチラチャップ出身。２０歳。５人家族で３姉妹の次女。高校卒業後、インドネシアの日本語学校を経て、2024年６月に来日。誕生間ヒジャブはイスラム教徒の証。礼拝は１日５回。仕事がある日も祈りを捧げている。

「人生初の仕事は阿南！優しい阿南人とふれあい、充実した日々」

日本の規律正しさや文化、技術力などに魅力を感じ、外国人技能実習生として来日。「たむらのタマゴ」は人生初の職場で、働く楽しさを感じているという。勤務は月曜～土曜。休みの日は日本語教室に通い、知らない言葉に出会う度、日本語の面白さと難しさを感じている。「日本の文化が大好きで、特に日本の祭りや花火大会、阿波踊りが好き。阿南に来てからは、日本語教室の仲間と一緒に眉山や室戸岬の水族館にも行って、仕事以外でも楽しい時間を過ごしている。インドネシアと比べて、日本は自然災害が多く、台風や津波が不安だけど、阿南市は故郷チラチャプに似ていて過ごしやすい」と話すメリサさん。将来の夢は飲食店を経営すること。インドネシア料理と日本料理を提供する店を作るのが夢だ。普段の生活で困っているのはゴミ分別。「分からないことは周りの人が教えてくれて、阿南の人々の優しさを感じる」と話してくれた。

プロフィール

Pariyar Rasmila（パリヤル ラスミラ）さん

ネパール出身。２年前に来日し、ビジネス学校２年、日本語学校２年、介護専門学校２年を修了し、今年５年４月から阿南市の特別養護老人ホーム阿南荘に就職。趣味は歌かとおしゃべりすること。介護の学校時代の友人とは現在も交流が続いている。

「日本で夢を実現！これからもずっと日本で暮らしたい」

日本から飛行機で 11 時間。ネパールの GHANDRUK から来日して７年。技能実習生の日本語能力は簡単なやり取りができる程度の N４～N５なのに対し、ラスミラさんは介護、福祉系の専門用語に加え、日常会話やビジネスシーンのやり取りも理解できる N2 レベル。最初は戸惑った阿波弁も現在は難なく使いこなしていて、お年寄りとの会話もスムーズに行える。「日本に来たきっかけは子どもの頃から日本が好きだったから。ネパールの家の近くは観光名所で、多くの日本人が訪れていた。日本人＝優しいと親しみを感じていて、いつか日本で働き、看護師になりたいと思っていた」と話す。来日した当初は日本食が苦手だったが、今は自分で調理するまでに。スパイスなどをインターネットで購入し、ネパール料理を作ることもあり、異国の地から故郷に思いを馳せることも。日本での生活は気に入っていて「これからも日本で暮らしたい」と話してくれた。

故郷ネパールの様子。

優しく丁寧な仕事ぶりでお年寄りからも人気。

取材の様子をまとめた動画　https://youtu.be/0WEoSNIrZ4s

冊子は 500 部印刷（A4 カラー、16 ページ）し、取材した外国人や事業者、国際交流協会をはじめ、市役所や図書館、市内小中学校、高校など多くの人に観ていただけるよう配布した。

まとめ

「外国人の皆さんにパワーをもらいました」「多様な文化や考えを受け入れる大切さやサポートの必要性を感じました」・・学生からは様々な感想が寄せられ、とても有意義な体験となった。

今回の活動や冊子が、在住外国人の理解と友好、そして本学の取組を多くの人に知ってもらう一助となることを願い、事業内容の報告とする。

実習中の成果発表会